

社会福祉法人 調布市社会福祉事業団

1 基本方針

調布市社会福祉事業団は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図る。

経営理念・経営方針を全職員が共有し、法人経営の両輪である障害福祉事業及び子育て支援事業に取り組み、地域福祉の推進に努める。

2 法人の現状と課題

今年度は、なごみ南側に建設中の調布基地跡地福祉施設「(仮称)こもれび」の竣工を迎え、令和8年度からの開設準備に入るほか、調布ヶ丘児童館、富士見児童館学童クラブ及びやぐもだい学童クラブを調布市から新たに受託し運営を始める。いずれも、拡大する行政需要に対応するもので、調布市と協力し事業の推進を図る必要がある。

しかしながら、職員の欠員が生じており、変則勤務の事業所においては、非常勤職員の応募も少なく、人材確保が法人全体での大きな課題となっている。そのため、多様な求人媒体の活用による求人方法の工夫や、正規職員採用にあってはオンライン説明会の開催などを通じた人材確保に取り組みさらなる改善と工夫を行わなければならない。

一昨年度に利用者に対する虐待事案が生じたことにより、利用者支援の在り方の振り返りを含め研修方法の検討や虐待防止チェックリストを活用した虐待防止に加え、利用者の身体拘束の適正化に向け取り組み、利用者に対する虐待の再発を防止しなければならない。

また、理事等巡回の実施、年代別による定例会の開催、新人職員との意見交換など気軽に相談できる環境を整え、職員と経営層の意見交換の場を引き続き確保し、風通しの良い職場環境づくりに取り組む必要がある。

近年、全国的に増加する大規模自然災害等に対応するため、各施設の防災対策への取り組みを調布市と連携して強めることが重要である。

調布市の福祉関係予算は、一般会計予算の５２．６％にあたる５９０億円を超える額が充てられ、高齢化社会対策と子育て支援等の緊急課題に向けた対策が推進されている。当法人では、障害福祉と子育て支援を事業の両輪として位置づけ、長年培ってきた信頼と技術を活かして地域にとって必要とされる法人として、調布市と協力しながら事業の推進に取り組まなければならない。

また、今年度は第４期中長期計画の最終年度となることから、第４期における課題の整理を行い、第５期中長期計画の策定に着手する。

３ 重点項目

- (１) 虐待事案の根絶に向けて、職員の意識改革に向けた研修や適切な支援の実現に向けた職員間の討議の積み上げ、風通しの良い職場環境の整備等を推進し、より良い支援に繋げていけるよう努める。
- (２) 戦略的広報による情報発信を通じて法人のブランディングを図り、福祉人材の確保に努める。
- (３) 第４期中長期計画を着実に推進し、課題を整理する。
- (４) 第５期中長期計画の策定に取り組む。
- (５) 調布ヶ丘児童館を受託し安定運営を図る。
- (６) 富士見児童館学童クラブを先行受託し、富士見児童館の受託に向け取り組む。また、やぐもだい学童クラブを受託し安定運営を図る。
- (７) 調布基地跡地福祉施設（仮称）こもれびの開設に向けた準備に取り組む。
- (８) 地震・水害等による大規模災害及びあらゆる事態を想定した防災・防犯対策の検討と備えの強化に取り組む。
- (９) 地域における公益的な取り組みを進める。
- (１０) 人事評価制度の実施に向け、一般職への導入を行う。